



勉強のこと・授業のこと

日比谷での勉強のこと…、何と云ってこれが一番気になることに違いない。

例えば先生方だって、日比谷高校に着任した当初は、「優秀な生徒たちにどんな授業をしたらイイのだろう？」とか、「こんな内容では物足りないのでは？」とか、「もっとレベルの高い教材を与えなければいけないのでは？」とか、色々心配したり悩んだりするのだ。ましてや君たちが狭い教室の中で緊張を強いられるとしても、それはある意味当然といえるのかも知れない。各中学校のトップクラスの諸君、それも「勉強だけできる」タイプではなく、何ごとに対しても平均以上の結果を残す諸君が集まっている中で、一体自分はこれから先どうなっていくのだろうか？果たして付いていくことができるのだろうか？…誰でもがそう思っているのである。

個人面談をしているが、ほぼ全員が勉強に対して何かしらの不安を抱えている。科目でいえば、「教材が多い上に量をこなさなければならぬ英語」と、「中学校とは進む速度が段違いの数学」が「二大！不安材料」(笑)であるようだ。国語が苦手な人にとっては、「高級すぎる現代文」もかなりのプレッシャーになっているようだが、古典に関しては、教えている人が達人であるの上にも、それを感じさせないフレンドリーさで、超高校レベルの内容(例えば「兎」…笑)をやっている割には、不安を感じている人はいないようだ。

繰り返すが、不安を感じるのは極めて当然のことであり、逆に、その不安があるという

ことこそ、「がんばりたい！」という気持ちの現れなのだと私は思う。

では、不安を解決するにはどうしたらイイのか？勉強するのである。他に方法はない。甲子園で優勝するチームが、一試合ごとに力をつけるように、日々の学習の中で力を付けてゆくしかないのである。それは逆にいえば、自分で勉強しなければ決して不安は解消されないということでもある。

その際注意してほしいのは、不安だからといって安易に塾や予備校・通信添削に頼っても効果はないということだ。高校受験の時を思い出せば分かるように、塾や予備校・添削は「学校の勉強を補って」「力を伸ばす」のに効果があるのであって(つまり得意科目の実力拡充向け…)、決して不得意を得意にしてくれるものではないのである。特に、高校生対象の塾や予備校・添削はその傾向が強いことを認識すべきだろう。

塾や予備校・添削で新たに与えられた教材をマスターするためには、その教材の予習・復習が当然必要になるが、不得意科目でそんな余裕があるのかどうか冷静に考えてみよう。まずは学校の授業・課題をしっかりと理解してこなすことを考えるべきだし、分からない所は担当の先生(あるいは得意な友人)に質問して解決した方が圧倒的に効果的である。質問された方も、教えるということは大いに勉強になるのだから、遠慮することはない。まずは学校の授業の完全理解を目指すこと。これが全ての根本である。